『日本案内記』に見る国立公園の旅行記事に関する一考察（3）

―昭和初期における観光文化研究―

A Study of the Travel Articles in National Parks Through an Analysis of the Travel Guide, *Nihon-Annaiki*（3）

―A Study of the touristic culture, 1929-1936―

谷沢　明

Akira Tanizawa

Abstract

This report was written as part of a study to investigate touristic culture through scenery. "*Nihon-Annaiki*" (all eight volumes), which the Ministry of Railways edited in the early days of the Showa era, has been highly evaluated as a guidebook. The situation of sightseeing spots is described in minute detail and it serves as a reference for knowing the shape of those sightseeing spots in the early stages of the Showa era. The descriptions of the natural scenery are full of specific details at the same time, too. The object of this report is to investigate the national parks appointed in the postwar period. Attention is paid to the descriptions, particularly of the scenery, such as the mountains, wetlands, gorges, waterfalls, hot springs in those national parks. Through the decoding of the travel articles, I clarify how to take in scenery. And, in a sightseeing tour around nature, I clarify what kind of form national parks, which are intended to attract attention, should be in.

はじめに

本稿は、鉄道省『日本案内記』（全 8 巻、昭和 4～11 年刊行）に記載された、戦後に国立公園となる場所を対象とする旅行記事を資料として、昭和初期における観光地の状況、観光の在り方を探ることを目的とする観光文化研究である。本研究では、先ず、拙稿「『クーポンで國立公園めぐり』に見る遊覧旅行の一考察」[1]において、本来、自然環境を保護すべく制定されるべき国立公園は、我が国において国民の健康増進はもとより、より濃厚に観光のための場として捉えられ、いち早くクーポン利用の遊覧コースとして企画がなされていた事実を明らかにした。次いで、前々稿「『日本案内記』に見る国立公園の旅行記事に関する一考察（1）」[2]において、戦前に指定された 12 国立公園の記載事項を比較検討することにより、それぞれの国立公園の特性を把握するとともに、「旅行日程案」および交通状況の検討をとおして、鉄道や自動車利用の交通網の発達が、民衆の観光旅行の隆盛を促していた事実を指摘した。さらに、前稿「『日本案内記』に見る国立公園の旅行記事に関する一考察（2）」[3]においては、同様に戦前に指定された 12 国立公園を対象に、『日本案内記』記述内容のより詳細な検討をおこない、昭和初期の国立

公園が観光利用において如何に着目されていたかを整理した。本稿は、前稿で扱わなかった戦後に指定もしくは改称・昇格・分離独立・区域拡張（以下、戦後に指定等という）がなされた国立公園を対象として、それらの場所が自然を巡る観光旅行においてどのような形で注目がなされていたかを明らかにするものである。なお、本書には、国立公園内にある山岳の登山案内が少なからず含まれているが、これは専門的一分野を成しているため、対象から除外する。先ず、戦後に指定等がなされた国立公園を年代順に整理すると〈表 1〉のとおりである。

〈表 1〉戦後に指定等がなされた国立公園

指定年	国立公園名（月日）
昭和 21 年（1946）	伊勢志摩国立公園（11.20）
昭和 24 年（1949）	支笏洞爺国立公園（5.16）、上信越高原国立公園（9.7）
昭和 25 年（1950）	磐梯朝日国立公園（9.5） 秩父多摩国立公園（7.10）〔H12：秩父多摩甲斐国立公園に改称〕
昭和 30 年（1955）	西海国立公園（3.16） 陸中海岸国立公園（5.2）〔H25:三陸復興国立公園に改称〕 【改称】富士箱根伊豆国立公園〔旧富士箱根国立公園〕（3.15）
昭和 31 年（1956）	【改称】十和田八幡平国立公園〔旧十和田国立公園〕（7.10） 【改称】雲仙天草国立公園〔旧雲仙国立公園〕（7.20）
昭和 37 年（1962）	白山国立公園（11.12）〔白山国定公園から昇格〕
昭和 38 年（1963）	山陰海岸国立公園（7.15）〔山陰海岸国定公園から昇格〕 【改称】大山隠岐国立公園〔旧大山国立公園〕（4.10）
昭和 39 年（1964）	知床国立公園（6.1）、南アルプス国立公園（6.1）
昭和 47 年（1972）	西表国立公園（5.15）〔西表琉球政府立公園が復帰に伴い国立公園にみなされる。H19：西表石垣国立公園に改称〕、小笠原国立公園（10.16） 足摺宇和海国立公園（11.10）〔足摺国定公園から昇格〕
昭和 49 年（1974）	利尻礼文サロベツ国立公園（9.20）〔利尻礼文国定公園から昇格〕
昭和 61 年（1986）	【改称】阿蘇くじゅう国立公園〔旧阿蘇国立公園〕（9.10）
昭和 62 年（1987）	釧路湿原国立公園（7.31）
平成 19 年（2007）	尾瀬国立公園（8.30）〔日光国立公園から分離独立〕
平成 24 年（2012）	屋久島国立公園（3.16）〔霧島屋久国立公園から分離独立〕
平成 26 年（2014）	慶良間諸島国立公園（3.5）〔沖縄海岸国定公園の慶良間地域が昇格〕
平成 27 年（2015）	妙高戸隠連山国立公園（3.27）〔上信越高原国立公園から分離独立〕
平成 28 年（2016）	やんばる国立公園（9.15）

備考：昭和 32 年（1957）国立公園法が廃止され、自然公園法が制定施行（10.1）

1.北海道の国立公園

『日本案内記北海道篇』によると、景勝地として注目されているものに、戦前に指定された大雪山国立公園、阿寒国立公園の外に、大沼、支笏・洞爺・登別がある。戦後、大沼は国定公園、支笏・洞爺・登別は国立公園になった地である。本書で支笏・洞爺・登別の特色を概観すると「有珠山を後にして全面遥に蝦夷富士の羊蹄山を望む北海道に稀なる明朗閑雅の洞爺湖畔一帯、温泉の豊富に加ふるに、物凄き光景を現ずる地獄谷と、幽邃そのものの如きクッタラ湖の景観と、森林美に恵まるる登別の大温泉郷、樽前、恵庭の両火山の影を映ずる支笏湖の明媚なる風趣など、また推賞すべき風景地である」[4]とある。風光明媚で風趣に富んだ支笏湖、明朗閑雅な洞爺湖、火山景観の現出する登別温泉と、このエリアは優れた風景地として捉えられていた。また、洞爺湖温泉のめざましい発展ぶりも特筆されている。[5]

北海道の国立公園（戦後指定）における『日本案内記』記載項目の一覧は〈表 2〉のとおりである。この時代、知床についての記載は皆無、釧路湿原においては、釧路丹頂鶴蕃殖地、塘路湖の二つ、利尻礼文サロベツ原野においては、礼文島、利尻島、利尻山の三つの記載項目にとどまり、戦前、これらの地は、戦前、ほとんど注目されていなかった。

〈表 2〉北海道の国立公園（戦後に指定等）における『日本案内記』記載項目

支笏洞爺国立公園:	【後方羊蹄山】【後方羊蹄山の植物帯】【定山渓温泉】【薄別温泉】【豊平峡】【定山渓付近のスキー場】【無意根山】【洞爺湖】【洞爺湖温泉】【洞爺湖ゴルフ場】【壮瞥の滝】【向洞爺】【有珠山】【弁慶温泉】【蟠渓温泉】【登別温泉】【北大付属温泉研究所】【湯沢神社】【地獄谷】【大湯沼】【登別スキー場】【日和山】【四方嶺】【倶多羅湖】【登別原始林】【カルルス温泉】【オロフレ山と登別山】【樽前山】【支笏湖】【丸駒温泉】【風不死岳】【恵庭岳】【千歳発電所】
知床国立公園:	記載なし
利尻礼文サロベツ国立公園:	【礼文島】【利尻島】【利尻山】
釧路湿原国立公園:	【釧路丹頂鶴蕃殖地】【塘路湖】

支笏・洞爺・登別を中心とした景勝地の記述をみていこう。先ず、支笏湖は「樽前山と恵庭岳との間に位する堰止湖で、（中略）水色は美しい紺碧を呈し、材木を運ぶ大筏が稀に湖上を往来し、湖辺の火山から煙が立ち昇り、風景壮観である」[6]と、湖辺の山々の風景が支笏湖の魅力を引き立てていることを記す。「材木を運ぶ大筏」とは、王子製紙会社のパルプ材運搬筏の事であろう。当時、支笏湖へは苫小牧駅から王子製紙会社苫小牧工場付属の専用鉄道[7]が延びており、これに便乗して支笏湖を訪れることができた。支笏湖周辺では、湖辺の風景を形成する樽前山、恵庭岳、風不死岳等について記載されている。樽前山は「駒ケ岳と共に我が国で最も多く浮石を噴出した活火山で、熔岩礫帯には高山植物が相当多く、開花期には美観を呈する」[8]と記し、山頂からは明境の様な支笏湖が望まれる、とその眺望を紹介する。恵庭岳は「その東部から少量の噴煙を見せて、晴天には遠く札幌市からも望むことが出来る。山腹は大部分原生林

に蔽はれて居る」[9]と記し、頂上からオコタンペ湖の俯瞰がよい、とたたえる。風不死岳は「その男性的な山容は支笏湖の一偉観」[10]と記し、支笏湖の景観が知られて以来漸次登山路も作られ人気を集める山である、と説く。

次いで、洞爺湖は「最大の中ノ島は七個以上の円頂丘を有して湖名の起因に関係深く、海抜四五五米に達し、天然林が繁って居る」[11]と洞爺湖に浮かぶ中ノ島の景観を記す。湖名は、トウ（湖）、ヤ（丘）に由来するとされることからも、中ノ島の存在は重要である。洞爺湖周辺では、湖辺の風景を形成する有珠山をはじめ、湖畔の洞爺湖温泉、向洞爺、壮瞥の滝等について記載されている。有珠山は「火口原は概ね森林帯をなし、銀沼の景観も稍々優れて居る」[12]と、火口原の景観も含めて記し、頂上から洞爺湖を一望に瞰下することも紹介する。洞爺湖温泉は「湖を隔てて胆振火山群の盟主後方羊蹄山―蝦夷富士の優姿を望む景勝地である」[13]と記し、近々、定山渓温泉との間に自動車便が開ける、と案内する。[14]洞爺湖温泉の対岸にある向洞爺は「有珠山の噴煙、中ノ島の翠緑が眼近く眺められ、白砂の湖汀には大樹列なって景勝地をなして居る」[15]と、有珠山と中ノ島の眺望が優れた景勝地であることを記す。洞爺湖水の落口が落差 40 mの壮瞥の滝である。

登別温泉は「四辺翠巒に包まれ、北方の日和山は不断に噴煙を見せて居る。市街はクスリサンベツ川（湯の流れる川の意）の流を挟んで延び、旅館、料亭、カフェー、土産品店など軒を並べ、脂粉の香の濃い遊楽的の温泉場である」[16]と記す。登別温泉は緑の連山に囲まれた環境にあるものの、歓楽街として妖艶な雰囲気が漂っていた情景がうかがえる。併せて、温泉付近に湯沢神社、勝鬨の滝、地獄谷、大湯沼、日和山、追分山、紅葉谷、登別原始林、四方嶺、倶多羅湖などの勝地があることを紹介する。登別の景観を特色づける地獄谷、大湯沼、日和山、そして周辺の倶多羅湖について次のように記述する。地獄谷は「古の噴火口の跡で、数十米の赭岩絶壁を繞らし、淡灰色硫黄質の岩丘起伏連亘し、大小無数の気孔と、熱泉を沸騰させて居る十数のいはゆる地獄があって、濛気四辺を罩め、地底から噴出する温泉は流れて川を成し、物凄い景観を呈して居る」[17]と、すさまじいばかりの火山活動の様子を記す。大湯沼は「一面に熱湯を湛へ、含有量約七五％の硫黄を汲みあげて居る。（中略）付近には絶えず噴涌して居る奥の湯の熱池もありまた大正地獄がある」[18]と、これまた大地の鼓動が伝わる火山活動について記す。日和山は「頂上より常に白煙を噴いて居る。その噴烟上昇の多寡または方向によって漁夫は海上から天候を予測するので日和山の名を負ふ」[19]と、火山活動と天候予測の民俗知識の関係を記す。倶多羅湖は「無口の火口湖で、（中略）水色極めて清澄、姫鱒を産する。（中略）秋季は錦繡の屏風湖を囲んで美観を現する」[20]と、透明感あふれる湖水と紅葉の美観をたたえる。

最後に、羊蹄山と定山渓温泉、豊平峡に触れたい。羊蹄山は「一名蝦夷富士と呼ばれ、またマッカリヌプリの別名があり、（中略）その規模は小さいが、全く富士型の秀麗な山容が車窓間近に迫って、倶知安平野の空高く描かれる線はまことに優美である」[21]と記すとともに、その植生の豊かさについて「我が国高山植物の一宝庫と称するも過言でなからう」[22]と指摘する。札幌郊外にある定山渓温泉へは電車が通じており、路線を含めた鳥瞰図 [23]が掲載されている。定山

渓温泉[24]については「原始林に蔽はれた峯巒の流に迫るところ、旅館、浴場、料亭など川を挟んで相対して軒を並べ、遊楽的な歓楽郷をなして居る」[25]と記し、付近の景勝地として白糸の滝、錦橋、二見岩、舞鶴瀞、銚子口の紹介をする。原始林におおわれた山の峰に迫る川沿いにあり、周囲に豊富な見どころがある定山渓温泉は、歓楽化していた。豊平峡については、「風光典雅幽邃にして而も雄大、耶馬渓、妙義の景に劣らずと云ふものがある」[26]と、もの静かで味わい深い峡谷美を称賛する。

2.東北の国立公園

『日本案内記東北篇』において、東北地方の最も有名な景勝地として日本三景の松島が挙げられているが、松島は、国立公園・国定公園のいずれにも指定されていない。本書では、交通機関の発達に伴い、新しい名勝地が世人の注目を集めるようになったことを述べ、著名な景勝地として十和田湖・奥入瀬渓谷・男鹿半島・田沢湖・山寺・笹川流・猊鼻渓・厳美渓・金華山・猪苗代湖・磐梯山を挙げている。[27]東北地方の景勝地の特徴として、「山容水態岩相樹姿の妙趣に加ふるに季節天候に伴ふ風致の変化があり、全国屈指の秀景をなして居る」[28]と、自然美の趣やその季節による変化が指摘されている。ここに例示された十和田湖・奥入瀬はすでに戦前に国立公園に指定された地である。また、男鹿半島、山寺はいずれも国定公園、金華山は三陸復興国立公園（旧南三陸金華山国定公園）、猪苗代湖・磐梯山は磐梯朝日国立公園に含まれている。田沢湖、猊鼻渓、厳美渓は著名な景勝地であるものの、国立・国定公園指定外の地である。

〈表 3〉東北の国立公園（戦後に指定等）における『日本案内記』記載項目

磐梯朝日国立公園:【嶽温泉】【安達太良山】【吾妻山】【微温湯温泉】【滑川温泉】【姥湯温泉】【松川源流の瀑布】【白布高湯温泉】【西吾妻山】【朝日岳】【出羽三山】【出羽三山登山】【猪苗代湖】【川上温泉】【中ノ沢温泉】【沼尻温泉】【沼尻、中沢温泉付近スキー場】【横向温泉、野地温泉】【野地温泉の噴気孔】【沼尻硫黄山】【磐梯山】【磐梯温泉】【押立温泉】【長浜】【戸ノ口】【飯豊山】【黄金堂】【出羽神社五重塔】【出羽神社】【月山登山】
十和田八幡平国立公園:【岩手山】
三陸復興国立公園:【金華山】【高田の松原】【浄土浜】【日出島の潮吹孔】

備考：金華山は旧南三陸金華山国定公園にあり、平成 25 年に三陸復興国立公園に編入。

東北の国立公園（戦後に指定等）における『日本案内記』記載項目は〈表 3〉のとおりである。戦後、十和田八幡平国立公園に編入された八幡平地域の記載は岩手山のみで八幡平は記述外、三陸復興国立公園の記載も金華山、高田の松原、浄土浜、日出島の潮吹孔の四項目にとどまり、注目度が高いとは言い難い。八幡平には、後生掛・玉川・蒸ノ湯といった味わい深い温泉があるものの、戦前はこれらの温泉に行こうにも山道しかなく近寄りがたい場所であった。また、陸中海岸は、当時、宮古・小本・野田に東北本線の駅から自動車が通っていたものの、

海岸線を南北に結ぶ交通手段は船以外になく、浄土浜、日出島を除いて、観光客が気軽に訪れることのできる場所とは言い難かった。

ここでは、記載項目が多い磐梯朝日国立公園の景勝地を中心に取り上げてみたい。ここには、北から出羽三山、朝日連峰、飯豊連峰、磐梯山、吾妻山地、安達太良山、猪苗代湖等の景勝地があり、記載項目からそれらが戦前から知られていたことがうかがえる。出羽三山 [29]は、東北地方の名だたる山岳信仰の聖地であり、山形県の月山、湯殿山、羽黒山の三山を指す。月山は「山形県羽前の中央に聳ゆる著名の火山で、（中略）山頂に官幣大社月山神社がある、累々たる石垣の中に奉祀されて居る」[30]と、月山神社の厳かな様子を記す。また、湯殿山は「輝石安山岩の塊片を混ぜる泥流の中から温泉が湧出し、その沈澱物は水酸化鉄を含んで黄褐色を呈し付近の岩塊を被って居て、温泉は絶えずその面を潤ほし奇景を呈する」[31]と記し、そこは湯殿山神のご神体で参拝者が行をする場である、と説明する。その黄褐色の岩塊を素足で登ってご神体を拝する風習は、今も変わることはない。さらに、羽黒山については山岳そのものよりかむしろ月山神、湯殿山神を合祀する出羽神社の記述となる。

朝日岳は「近来東北アルプスの名を以て知られて居る、（中略）付近一帯は深山幽谷をなし眺望実に雄大である」[32]と記し、大正 11 年に旧制山形高等学校生徒その他の登山により世に知られることとなった、と説く。飯豊山は「この山群は福島、新潟、山形の三県に跨り、飯豊山（二、一〇五米）を主峯として（中略）東北有数の深山地帯を成して居る」[33]と記す。山形・新潟県境にあるこれらの山岳には一般観光客は近づきにくく、その記述は、いずれも登山案内の色彩が強い。

福島県では磐梯山、吾妻山地、安達太良山、猪苗代湖等が紹介されている。磐梯山は「猪苗代湖の北方に聳ゆる火山で、その輪廓富士山に類するにより一に会津富士と称せられる。」[34]と記す。明治 21 年、磐梯山は噴火した。この噴火により裏磐梯に幾多の湖沼群が生じた。このことについて「当時飛散した灰泥は北麓の渓谷を埋め、流水を堰き止め、ここに桧原、小野川、秋元（吾妻）の三湖その他数多の池沼を作った」[35]と、裏磐梯の景観形成を述べる。

磐梯朝日国立公園有数の見所である浄土平周辺の吾妻山は「東吾妻火山群では一切経山がその最高峰をなし、（中略）五色沼の火口湖がある。この沼はほぼ円形で直径三九〇米、水は清澄で酸味を帯びて居る」[36]と、一切経山と五色沼について記す。また、記述は吾妻小富士に及び「山頂には径五〇〇米に及ぶ円形の火口があり、擂鉢状で、内壁には集塊岩及熔岩の互層が見られる」[37]と、火山活動で生じた巨大な火口を紹介する。さらに、浄土平は「沼の北には沼ノ平と称する平地があり、東西六〇〇米、南北五〇〇米」[38]と記す。「沼ノ平」と表記された平地が今日「浄土平」と呼ばれる湿原である。吾妻山は古来、信仰・登拝の霊山であり、精進潔斎して講中で登る山で、今日ほど容易に近づける場所ではなかった。現在、浄土平には磐梯吾妻スカイライン利用で容易く到達でき、そこにはビジターセンターも設置され、この国立公園有数の探勝拠点となっている。

安達太良山 [39]は、その優れた眺望に記述が及ぶ。猪苗代湖は「四周概ね山を廻らし、北方の

磐梯山はその姿を湖水に浸し、南方からの眺望がよい」[40]と、湖に姿を映ずる磐梯山の眺めに着目する。猪苗代湖には、当時、上戸駅から小平潟天神、高松宮別邸のある長浜を経て翁島などを湖上遊覧する航路があったことが、挿図から確かめられる。

3.関東の国立公園

『日本案内記関東篇』において、名だたる景勝地として東の日光、西の箱根、富士山が挙げられているが、これらはいずれも戦前に国立公園に指定された所である。戦後新たに指定された秩父多摩甲斐国立公園では、青梅の奥多摩渓谷、甲州御嶽の昇仙峡から瑞牆山、秩父の三峰山が観楓の勝地として挙げられている。[41]

また、戦後日光国立公園に編入された鬼怒川・那須・塩原地域では、著名な温泉として鬼怒川、塩原、那須の諸温泉が挙げられている。そして、鬼怒川渓谷、塩原の箒川渓谷一帯、那須の八幡高原一帯を躑躅の見所として挙げるとともに、鬼怒川渓谷、箒川渓谷、那須の北温泉、飯森温泉、板室温泉付近が観楓の勝地として紹介されている。[42]

戦後、富士箱根伊豆国立公園に編入された伊豆地域では、著名な温泉として伊東、奈古、長岡、修善寺、船原、吉奈、土肥、湯ヶ島、蓮台寺、加茂、谷津、峯の各温泉が挙げられ、天城山が観楓の勝地として紹介されている。[43]

関東の国立公園（戦後に指定等）における『日本案内記』記載項目の一覧は〈表 4〉のとおりである。なお、小笠原国立公園（刊行当時、東京府の管轄に属し、1 年に 16 回の船便があった）においては、「小笠原諸島」一項目の記載のみである。[44]

〈表 4〉関東の国立公園（戦後に指定等）における『日本案内記』記載項目

秩父多摩甲斐国立公園:	【吉野梅林】【御嶽神社】【日原の鍾乳洞】【小河内温泉】【大菩薩嶺】【秩父連峯】【御嶽昇仙峡】【板敷瀑渓】【野猿谷】【金桜神社】【猫坂の燕石】【黒平鉱泉】【金峯山付近の水晶産地】【瑞牆山】【三峯神社】【三峯の樅の変種】【中津峡】【秩父連峯秩父登山口】
日光国立公園:	【鬼怒川温泉】【川治温泉】【西湯川温泉】【塩原の渓谷】【塩原温泉】【高原山】【那須火山群】【那須登山】【那須温泉】【那須硫黄鉱山】【板室温泉】
富士箱根伊豆国立公園:	【伊東温泉】【伊豆大島】【八丈島】【三津海水浴場】【修善寺温泉】【修善寺】【湯ヶ島温泉】【天城山】【熱川温泉】【下田】【玉泉寺米国領事館址】【白浜】【白浜神社】【賀茂温泉】【石室岬】【堂ヶ島】【戸田海水浴場】【土肥温泉】
小笠原国立公園:	【小笠原諸島】

備考：昭和 25 年、日光国立公園に鬼怒川・足尾・那須・塩原地域が編入。昭和 30 年、富士箱根伊豆国立公園に伊豆地域が編入。

秩父多摩甲斐の景勝地として、三峰神社、御嶽神社、御嶽昇仙峡を取り上げてみたい。奥秩父には、主峰の金峰山をはじめ、甲武信ヶ岳、国師ヶ岳、雲取山などの秩父山地の山々が連な

り、秩父山地東端の三峰山の山上に三峰神社が鎮座する。三峰神社は「古来火防盗難除のために御眷属拝借と称し神符を受けるものが多い」[45]と記す。三峰神社の眷属は狼であり、狼の絵柄が刷り込まれたお札を受けに、多くの参詣者が訪れることが紹介されている。

奥多摩の青梅市の御岳山に鎮座する御嶽神社は「御嶽山上には旅館はないが、古来神社と密接な関係をもち、多くの講中を宿泊せしむる御師の家が二十余軒あって、参詣人に宿泊の便を与へて居る」[46]と記す。御岳山の山上には、今もここに記された御師の家々が残り、特異な集落景観をみせる。先の三峰山、御岳山はともに山岳信仰の霊場であり、関東一円の人びとが信仰登山する山であり、そこに祀られた三峰神社、御嶽神社が庶民信仰に支えられた遊楽地になっていたことをうかがうことができる。

山梨県の景勝地として名高い昇仙峡についての描写は詳細を極める。昇仙峡は「到る処花崗岩の巨塊が裸出して奇峭断崖をなし、荒川の清流と赤松の点綴がこれを粉飾助成して勝景をなしたもので、峡中登竜巖、覚円峰、天狗巖、屏風巖、仙峨滝は壮観として名を得て居る」[47]と記す。甲府駅から天神森まで自動車の便があり、天神森から峡中を徒歩で登竜巖に至る。峡中の見どころは「天神平の前の長潭橋も風景を添へる。それより大砲石、人面石、駱駝石など形によって名づけた花崗岩塊を河岸に見、不動滝、轆轤滝を河中に見下し、富士岩、臥竜松を賞して対岸に高く聳ゆる山頂の猿岩を仰ぎ見る。次に天神平から二粁で登竜岩に達する」[48]と、巨岩怪石等の様子を事細かに記す。また、昇仙峡最大の見所である覚円峰から仙娥滝にかけて「覚円峰は峡中最大の岩壁で壮観を極めて居る。天狗岩はこれに次いで偉大である。次に大岩塊の下にある石門を潜り、雪虹滝を見、昇仙橋を渡れば仙峨滝に達する。滝は高さ三〇米、三段となりて落下する」[49]と、その壮観な姿を紹介する。なお、本書にも記述しているが、昇仙峡は、天保年間に長田円右衛門が道路を開鑿したことにより世に知れ渡った歴史ある景勝地である。

日光国立公園では、鬼怒川温泉、塩原温泉、那須温泉の景勝地に関する記述がみられる。鬼怒川温泉は「温泉場付近は鬼怒川渓谷中最も風景美に富み、湯の滝、大滝の勝あり。川に沿うて川治温泉に至る途中は春は野州花、秋は紅葉の美あり、また虹見の瀑、兎跳、五光岩、岩削橋、夫婦滝などの勝景がある」[50]と、渓谷美と季節による風趣を記す。

塩原温泉は「大温泉郷で、西の箱根と並称せられ、箒川一帯の渓谷美と、春の野州花、秋の紅葉の美観は、都人士を牽きつける大きな力を有って居る」[51]と、同様に渓谷美を記す。

那須温泉は「那須岳の噴烟、那須野の展望に加へて、九尾の狐に絡る伝説を有する殺生石もあり、那須与一に因縁深き温泉神社もあり、春のつつじ、秋の紅葉の美観もあり、浴泉、観賞、登山、旅行者の心を牽くべき多くの力を有って居る」[52]と、周辺の山岳や平野の風景をはじめ史跡等を含めた多様な魅力を記す。

富士箱根伊豆国立公園では、三津海水浴場、湯ヶ島温泉、石室岬、堂ヶ島に景勝地に関する記述がみられる。三津海水浴場は「駿河湾の一支湾たる内浦湾に臨める景勝地で左方は大瀬の岬、右方は江の浦湾の長汀曲浦から沼津の千本松原の翠黛も眺められ、湾頭には海抜一三四米の高さを有し円錐形をなせる淡島の青螺美しく波に浮んで画景をなし、更に島と鷲頭山の間に

富士の麗姿が仰がれる」[53]と記す。富士山を背景に、緑にかすむ千本松原の景色が海水浴場を引き立てていた姿が目に浮かぶ。三津は、古奈、長岡温泉の客が足を伸ばす遊賞地としても知られていた。

湯ヶ島温泉は「天城山の西北麓、狩野川、猫児川の流に臨み、頗る嵐気に富んだ幽邃境である」[54]と、冷え冷えした空気が山中にこもり、物静かで、奥深い景色に包まれた温泉地の様子を記す。

石室岬（石廊崎）は「岬角は集塊岩より成り、風波の浸蝕により奇景を呈して居る。長津呂の港より南に向ひ山稜に沿うて進めば、左右の海上に奇岩の蟠るを見、測候所、燈台を過ぐれば尖端の絶壁に至る。これよりやや下れば石室神社が半ば石壁に掩はれて建てられて居る」[55]と、岬の奇景を記すとともに、岬からの眺望[56]は、伊豆七島を眺め、風景極めて雄大であることを紹介する。

堂ヶ島は「凝灰岩より成る小半島に海波の浸蝕により生じたる十字形の洞窟で、上部の天井陥落して洞内に光線が入る。海波は常にここに入りて美音を生ず」[57]と記すが、この記述は天然記念物の「天窓洞」のことであり、舟によって洞中を通り抜けることができる、と紹介する。なお、堂ヶ島の海岸線は、海底火山の噴火に伴う水底土石流と、その上に降り積もった軽石・火山灰層が特徴的な景観を形づくっているが、その全体像まで記述は及んでいない。

4.中部の国立公園

『日本案内記中部篇』において注目されている景勝地は、当時、「日本新八景」の一つとして脚光を浴びていた上高地、木曽川（犬山周辺の木曽川下り）をはじめ、その数は少なくない。戦後初の国立公園に指定された伊勢志摩国立公園は、「鳥羽湾一帯は絵の如き風景美があり、その島めぐりが旅行者に喜ばれる」[58]と、鳥羽湾の風景美が紹介されている。

上信越高原国立公園では、スキー地としての志賀高原をはじめ、山田温泉、平穏温泉郷、発哺温泉、熊の湯等の諸温泉が主に取り上げられている。また、妙高戸隠連山国立公園では、妙高山をはじめ妙高山麓の諸温泉として赤倉、妙高、池の平、関、燕の諸温泉、野尻湖、戸隠山等に記述が及ぶ。

南アルプス国立公園では、甲斐駒ケ岳をはじめ六つの山岳について登山案内を中心に記載し、「千古斧鉞の入らぬ鬱蒼たる大森林は南アルプスの特色である。草本帯には高山植物も頗る豊富で、夏期はお花畑の美を現出して居る」[59]と述べる。中部の国立公園（戦後に指定等）における『日本案内記』記載項目の一覧は〈表 5〉のとおりである。

伊勢志摩の景勝地として、鳥羽の島めぐり、英虞湾の記述が目に留まる。鳥羽の島めぐりは「鳥羽湾の風光を賞するには、島めぐりをするがよい。（中略）駅から約一〇〇米の岩崎桟橋で船を傭ひ、小浜養魚場を見て、飛島、浮島、答志島、弁天島などを経て帰着するもので、約一時間半を要する」[60]と記す。当時、島めぐりには、東廻り、西廻り、大廻りなどのコースがあった。また、鳥羽の展望地として樋の山[61]と日和山[62]が紹介されている。

〈表 5〉 中部の国立公園（戦後に指定等）における『日本案内記』記載項目

伊勢志摩国立公園:	【皇大神宮（内宮）】【朝熊山】【金剛證寺】【二見ヶ浦】【鳥羽町】【鳥羽港】【鳥羽城址】【日和山】【樋の山遊園】【小浜鯛池】【鳥羽の島めぐり】【庫蔵寺】【伊雑宮】【鸚鵡石】【波切港】【英虞湾】【賢島】【御木本養殖真珠】【和具村】
上信越高原国立公園:	【山田温泉】【平穏温泉】【地獄谷温泉】【地獄谷の噴泉】【旭山】【澗満滝】【幕岩】【熊の湯温泉】【志賀高原】【渋峠】【発哺温泉】【上林、発哺、熊ノ湯付近スキー場】【岩菅山】
妙高戸隠連山国立公園:	【戸隠神社】【戸隠山】【野尻湖】【池ノ平温泉】【赤倉温泉】【関温泉】【燕温泉】【妙高山麓スキー場】【妙高山】
南アルプス国立公園:	【鳳凰山】【甲斐駒ケ岳】【仙丈ケ岳】【白峯三山】【塩見岳】【赤石岳】

備考：平成 27 年、妙高戸隠連山国立公園が上信越高原国立公園から分離独立。

英虞湾は「志摩半島の南部にあって数多の支湾を有し、賢島、多徳島、横山島、土井ヶ原島、間崎島、天童島などが碁布して居る。（中略）この湾は古来真珠貝を産し、東北奥の多徳（田徳）島は御木本真珠養殖の発祥地である」[63]と記し、多徳島では海女の活動の様子を見る事ができることを紹介する。他に志摩の景勝地として波切の大王崎 [64]の断崖絶壁の景観も取り上げられている。

上信越高原国立公園にある志賀高原は「森林、岩石、渓谷、湖沼、温泉、あらゆる景勝の要素を備へ、夏はキャムピングの場所として、冬はスキー場として近年俄に世に知られて来た」[65]と、景勝地としての多様な魅力を記す。志賀高原がにわかに脚光をあびたのは、昭和 2 年、長野電鉄が中野駅～湯田中駅間を開通させ、地元住民と協働した観光開発に力を注いだことによる。志賀高原には、すでに戦前、スキー客用の本格的なホテルが建設された。[66]

妙高戸隠連山国立公園では、妙高山、妙高山麓スキー場、赤倉温泉、野尻湖、戸隠山等注目される記述が少なくない。妙高山は「この山は妙高火山群の主峯でコニーデとトロイデとの合成で標式的な二重式火山である」[67]と記し、山容秀麗で、越後富士の別名がある、と述べる。また、妙高山の裾野に広がる妙高山麓スキー場については「裾野に散在する妙高、池ノ平、赤倉、関、燕の諸温泉を中心として、付近一帯は我国に於ける豪雪地で、（中略）本邦有数の理想的スキー地として著名である」[68]と、スキー地としての魅力を記す。とりわけ妙高山の中腹にある赤倉温泉は「付近一帯が絶好のスキー場で、山、海、湖の展望に富んで、展望美を以て知られ、スキーの赤倉は妙高山麓中最も著名である。毎年各宮殿下にも御練習に成らせられる」[69]と、その展望美を記す。なお、ここに記された宮殿下とは、高松宮殿下、秩父宮殿下のことであり、すでに大正期に来訪されている。赤倉は、戦前からスキーリゾート地として著名であった。[70]

野尻湖は「湖畔の眺望雄大である。近年この湖畔に外人の別墅を営むもの多く、避暑としての栄ある将来を有して居る」[71]と記す。なお、野尻湖に避暑地が開発されたのは大正 9 年のことであり、カナダ人が開発をおこなったことにより、外国人の別荘が建ち並んだ。

戸隠山は「西岳から戸隠山を経て北の五地蔵山に至る約一〇粁の山列は、東南面著しく懸崖、

奇峯をなして、全山凝灰質集塊岩からなり、妙義山式の奇景を呈して壮麗を極める」[72]と、奇峰をなす山容を記すとともに、山麓に国幣小社戸隠神社があり、山頂に奥社があって、古来信仰登山者が多いことを述べる。

5.近畿の国立公園

『日本案内記近畿篇』において注目される景勝地として、日本第一の大湖である琵琶湖、日本三景の一つ天橋立をはじめ、京都市嵐山、奈良県吉野山、三重県月瀬梅林・赤目渓谷、和歌山県串本橋杭岩などが挙げられている。[73]吉野は戦前に国立公園に、琵琶湖、天橋立、赤目渓谷は、戦後、国定公園になった地である。戦後、国立公園に編入された熊野灘沿岸においても、いくつかの名所、温泉等が紹介されている。

瀬戸内海国立公園も戦後、範囲が拡張され、本篇で扱う兵庫県も公園の範囲に含まれるようになった。そこには古来、歌に詠まれた風光明媚な地があり、「瀬戸内海に瀕せる播磨の海浜特に須磨、舞子、明石の海浜は古来風光明媚の勝境と歌はれ、後に低い洪積層の丘陵を負うて、明石海峡の一葦帯水を隔てて淡路島に対するところ、白沙の上に婆娑たる影を落す松の木の間から、畳の如く浪静なる海上に動くともなき真帆片帆を数へる風情などまたなき景致である」[74]と、一幅の絵画のような情景を記す。

〈表 6〉近畿の国立公園（戦後に指定等）における『日本案内記』記載項

吉野熊野国立公園:【田辺町】【闘鶏神社】【扇ヶ浜海水浴場】【鬼橋巖と獅子舞岩】【蟾蜍巖と動鳴渓】【奇絶峡】【神島】【白浜温泉】【湯崎温泉】【瀬戸鉛山村の地層面の漣痕】【瀬戸鉛山村の泥板岩の岩脈】【瀬戸臨海研究所】【椿温泉】【串本町】【蘆雪寺】【潮岬】【潮岬無線電信局】【土国軍艦遭難の碑】【橋杭岩】【獅子岩と鬼ヶ城】【尾鷲町】
瀬戸内海国立公園:【六甲山】【神戸ゴルフ場】【摩耶山】【布引滝】【室津港】【見性寺】【生島樹林】【赤穂御崎】【和歌浦】【玉津島神社】【東照宮】【天満宮】【新和歌浦】【雑賀崎】【加太町】【加太神社】【春日神社本殿】【淡路】【岩屋町】【三対山】【絵島】【松帆の浦】【洲本町】【三熊公園】【慶野松原】【五色浜】【鳴門遊園地】【由良町】【沼島】
山陰海岸国立公園:【玄武洞】【城崎温泉】【温泉寺】【竹野海水浴場】【金比羅海水浴場】【西但馬の海岸】【余部鉄橋】

備考：吉野熊野国立公園は、昭和 24 年潮岬地区、昭和 40 年洞川地区、昭和 50 年鬼ヶ城以北の海岸を追加指定。瀬戸内海国立公園は、昭和 9 年指定当初は小豆島から鞆の浦までの備讃瀬戸を中心とした範囲。昭和 25 年区域が拡大し陸域がほぼ現況近くになる。昭和 31～43 年に海域拡張及び六甲山地区・加太地区・五色台地区を編入。

国定公園から昇格した山陰海岸については、城崎温泉や玄武洞が取り上げられるとともに、西但馬の海岸が注目されている。西但馬の海岸は「香住以西浜坂に至る間の西但馬の海岸は山

陰第一の雄大なる嶮岸をなし、海蝕作用による奇島、洞門、洞窟等造化の妙技を現はして居る」[75]と紹介されている。なお、近畿の国立公園（戦後に指定等）における『日本案内記』記載項目の一覧は〈表 6〉のとおりである。

吉野熊野の景勝地として、橋杭岩、獅子岩と鬼ヶ城の描写が目を引く。紀伊半島南端の串本付近にある橋杭岩は「大小三十余の列岩が沖合の大島に向って略南北に連亙し、恰も橋杭が並んで居る様で、その上に松樹が生へて風景を添へて居る。この列岩は第三紀の頁岩中に噴出した石英粗面岩が海水の侵蝕に抵抗して今尚残存して居るもの」[76]と記し、侵蝕作用によって生じた景観であることを述べる。

熊野灘の七里御浜の北端に位置する景勝地が、獅子岩と鬼ヶ城である。獅子岩は「名の如く巨大なる獅子王が海に向って咆哮するが如き姿をなし」[77]と記す。また鬼ヶ城は「巨巖天を蔽うて窟内千畳敷をなし、優に数千人を容るることが出来る。鬼の住むやうな城と云ふ意味から名づけられたものだと云ふ」[78]と記し、獅子岩とともに海に向って石英粗面岩より成る奇景を現わしている、と述べる。

瀬戸内海では、兵庫県の六甲山、摩耶山の山岳景観、赤穂御崎、室津、淡路の岩屋、松帆の浦、慶野松原の海岸風景の描写が、その風光をよく伝えている。

六甲山は「山頂は眺望雄大、春は躑躅、夏は避暑、秋は紅葉、冬はスキー及スケートによく、ゴルフにも適し、遊園地、ホテル、別荘等がある」[79]と記し、交通手段である六甲越有馬鉄道の経営する鋼索線及び六甲山架空索道線を紹介するとともに、明治 36 年に開業した歴史の古い神戸ゴルフ場に触れる。また、摩耶山は「老樹鬱蒼としてこれを蔽ひ、山上は展望がよく、仏母摩耶夫人を祀る天上寺、ホテル、温泉、会堂、遊園、摩耶城址、赤松則村父子墓等がある」[80]と記す。六甲山・摩耶山のいずれにも遊園地・ホテル等の施設があり、神戸近郊の行楽地になっていた様子を知ることができる。

山陽沿岸の赤穂御崎は「波濤岩岸を噛み、青松枝振面白く、前面に家島列島碁布し、その右に小豆島並に四国の山影が遠望せられ、風光絶佳」[81]と、優れて美しい風光を記す。また、帆船時代に港町として栄えた室津は「港の南を限って西に突出して居る小半島に、賀茂神社が鎮座し、境内頗る風景がよい」[82]と、歴史の香り漂う瀬戸内の港町の風光を愛でる。

淡路島の北端にある岩屋は「その位置環境、天に恵まれて風光殊に勝れ、古来歌枕に名高い絵島や、大和島、水無瀬山等の奇勝絶景が多い」[83]と、古来、歌枕として名高い景勝地であったことを記す。また、淡路島北部突端の松帆の浦は「明石海峡即ち岩屋の瀬戸の最狭の所、僅か約二海里を距てて舞子、明石の勝景に対し、西方播磨灘に浮ぶ小豆島、家島を望み、眺望がよい」[84]と、その風光・眺望の良さを紹介する。さらに、淡路島西海岸にある慶野松原は「長大なことは肥前唐津の虹の松原に及ばないが、風光甚だ佳なることはこれに似て居る」[85]と、優れた風光を説く。いずれも、瀬戸内海に浮かぶ島々を背景に、特色ある景観が形づくられていることがその描写から伝わってくる。

山陰海岸では、城崎温泉、玄武洞、西但馬の海岸の景観描写が目に留まる。城崎温泉は「三

面山を繞して翠緑滴るばかり、東は朝来川を隔てて鞍掛、太白の秀嶺を望み…」[86]と記す。城崎温泉街は大正 14 年の但馬地方大震災の際殆ど灰燼に帰したが、面目を一新して旧時にまさる繁栄をきたした、と述べる。城崎から内陸部に入った所にある玄武岩の柱状節理で知られる玄武洞は「洞は凡て元石材として玄武岩を採掘せる人工洞穴であるが、その岩石の産出状態は人工の及ばぬ神工鬼斧の跡が残されて居る」[87]と、石材採掘跡地の景観についても着目する。

前述した香住から浜坂に至る西但馬の海岸風景については「山陰第一の雄大な嶮崖をなして居る。（中略）岩質現出の状況や海蝕作用によって、千姿万態の状貌を呈し、造化の妙技を尽して居る。弁天島、鷹巣島、窓島、蓬莱島、小松島、但馬松島、釣鐘洞窟、旭洞門、下荒洞門、地獄極楽洞窟、竜宮洞、三尾大島などはその主な勝境で、夏は香住と浜坂から遊覧発動機船が出る」[88]と、海蝕作用が生み出した海岸美を記す。なお、香住と浜坂の港からの遊覧船は、現在も運行している。

6.中国・四国の国立公園

『日本案内記中国・四国篇』において、第一の景勝地として瀬戸内海を挙げ、これに次いで大山の裾野を含む山岳風景が取り上げられている。いずれも戦前に国立公園に指定された所である。瀬戸内海国立公園の区域拡張がなされた場所においては、日本三景の一つ厳島や、渦潮で有名な鳴門をはじめ、数多くの記載項目がある。厳島は「その自然美と神社仏閣の建築による人工美の渾然たる融合を示したる景勝地で、その名は既に世界的に知られ」[89]と、自然美と人工美の融合を説く。また、鳴門は「潮の干満の交替に当って、海水の大激流を起す海面の壮観で、古より世に名高く、また他に比類なき景観である」[90]と、渦潮の壮観を述べる。

大山隠岐も、多くの記載項目が見られる。とりわけ島根県美保の北浦は「日本海々岸に特徴とせられる浸蝕型の海岸美を長距離に亙って現した奇勝で、断崖、絶壁、洞門、石柱、岩礁の連続である」[91]と浸蝕海岸の景観美を記す。美保半島においては「その南岸に於て夜見ヶ浜、大山の遠望あり、更にその西方中海、宍道湖一帯に亙る明媚秀麗なる女性的風景に接したる後、その北浦に於ける豪壮怪奇なる男性的風景を見ることに探勝者に興味を与へるのである」[92]と、半島南岸と北岸との景観の違いを対比する。

山陰海岸は近畿篇と分散して記述がなされており、本篇においては山陰の松島と称される浦富海岸、鳥取砂丘等が紹介されている。浦富海岸の記述は詳細を極めるが、鳥取砂丘については簡略である。

四国の足摺宇和では、蹉跎岬（足摺岬）ほかが取り上げられ、蹉跎岬は「花崗岩の一地塊の先端をなして、脚下に太平洋の荒波を砕いて雄偉なる岸海風景を現して居る」[93]と、その雄大な海岸風景が記されている。中国・四国の国立公園（戦後に指定等）における『日本案内記』記載項目の一覧は〈表 7〉のとおりである。

〈表 7〉中国・四国の国立公園（戦後に指定等）における『日本案内記』記載項目

瀬戸内海国立公園:【牛窓町】【瑜伽山】【唐琴の浦】【象岩】【宇野付近の鯛網】【かぶとがに蕃殖地】【高島行宮址】【真鍋島】【なめくじうお棲息地】【能地の浮鯛】【あび渡来群游海面】【すなめりくぢら廻游海面】【隠戸瀬戸】【厳島】【厳島神社】【大願寺】【多宝塔婆】【荒胡子神社本殿】【五重塔婆】【千畳閣】【光明院】【弥山】【弥山原始林】【杉之浦海水浴場】【虹ヶ浜松原】【室積町】【室積湾】【峨嵋山樹林】【下関海峡】【小門】【津田の松原】【白鳥神社】【白鳥の松原】【白鳥のうばめがし】【白鳥海水浴場】【引田城山】【白峰寺】【崇徳天皇白峯御陵】【飯野山（讃岐富士）】【琴平町】【金刀比羅宮】【琴引公園】【琴引神社】【観音寺】【有明の浜海水浴場】【志々満ヶ浜海水浴場】【鯛網】【大山祇神社】【波止浜町】【波止浜公園】【北条海水浴場】【鹿島】【三津の朝市】【梅津寺海水浴場】【高浜港】【興居島】【佐田岬】【三崎村あこう樹】【豊予海峡】【鳴門】【鳴門海峡】【鳴門の根上り松】
大山隠岐国立公園:【蒜山スキー場】【三徳山】【三仏寺】【美保関町】【美保神社】【仏谷寺】【五本松公園】【地蔵崎燈台】【美保の北浦】【多古の七ッ穴】【築島の岩脈】【潜戸】【大社町】【大梶七兵衛紀功碑】【出雲大社】【大社教本院】【出雲教本院】【出雲お国墓】【上の宮】【稲佐浜】【因佐社】【日御碕神社】【日御碕燈台】【経島うみねこ蕃殖地】【三瓶山】【隠岐】【知夫港】【牧畑】【渡津】【由色比売神社】【船引運河】【焼火神社】【文覚窟】【黒木御所址】【後鳥羽上皇行在所址】【後鳥羽天皇御火葬塚】【くろきづた産地】【崎港】【西郷町】【駅鈴及倉印】【闘牛】【玉若酢命神社】【玉若酢命神社の八百杉】【隠岐国分寺】【水若酢神社】【白島】
山陰海岸国立公園:【浦富海岸】【浦富海水浴場】【鳥取砂丘】
足摺宇和海国立公園:【雪輪の滝（滑床）】【鮎返滝】【清水町】【清水あこう自生地】【蹉跎岬（足摺岬）】【金剛福寺】【竜串】【見残し】

備考：大山隠岐国立公園は、昭和 38 年大山国立公園から区域を拡大して現在の名称に改称。

先ず、瀬戸内海にある日本三景の一つ厳島は「島中の最高峰を弥山と云ひ、高さ四五五米、瀬戸内海風景の眺望がよい。（中略）海中に建てる厳島神社の大鳥居は島の一偉観で、廻廊は海中に築営せられて恰も海上に浮ぶが如く、日本三景の一として人口に膾炙して居る。平家の崇敬により建てられたその社殿は今なほ壮麗を極め、付近一帯また史跡に富み…」[94]と記し、史跡と名勝を兼ね備えた厳島が今尚観光の人に喜ばれるのは尤のことである、指摘する。関連項目として、厳島神社をはじめ、大願寺、多宝塔婆、荒胡子神社本殿、五重塔婆、千畳閣、光明院といった社寺や弥山、弥山原始林の厳島を取り巻く自然美が挙げられている。弥山及び原始林の風致は厳島の景観を引き立てるうえで不可欠であることがうかがえる。

次いで、鳴門の記述として、鳴門の瀬を瞰下するに最もよい丘陵地として鳴門公園[95]を挙げ、御茶園眺望台[96]、千畳敷[97]に至る順路に従って紹介し、千畳敷付近に旅館、料亭が建つ有様も記述する。

瀬戸内海の海辺の景観を物語るものに「白砂青松」という言葉がある。香川県の津田の松原、白鳥の松原がその代表例として取り上げられている。また、帆船時代に港町として発達した岡

山県牛窓や山口県室積も、風光明媚な地として紹介されている。その他、瀬戸内海では、当時、観光的に知られていた鯛網（岡山県宇野付近、愛媛県今治市の沖合）、潮流の関係で鰾が急に膨れ上がって鯛が海面に浮かび上がる珍現象である能地の浮鯛（広島県三原市幸崎町）、天然記念物のかぶとがに蕃殖地（岡山県笠岡市）、あび渡来群游海面（広島県斎島〈現、呉市〉）、すなめりくぢら廻游海面（広島県竹原市大乗）等、瀬戸内海の生態・漁労習俗を物語る記述も事欠かないが、ここでは割愛する。

大山隠岐の景勝地として、大山周辺の蒜山[98]や三徳山[99]、島根半島の美保の北浦、多古の七ッ穴、潜戸、日御碕等が挙げられている。島根半島の美保の北浦は前述したが、やや詳しく触れると「地層錯乱して断層裂罅に富み、北海の怒涛に洗はれて岬湾、絶壁、洞窟、岩礁多く、半島の南岸と異って風光雄壮である」[100]と、風光雄壮な海岸美を記す。また、多古の七ッ穴[101]、潜戸[102]のいずれもが天然記念物に指定されていた。当時、美保の北浦は、伯耆境港から恵曇港行の汽船を利用して鑑賞、多古の七ッ穴は加賀から汽船利用、潜戸は加賀の岩木灘から観覧船を利用して見物するのが一般的であった。島根半島西部にある日御碕[103]では、落日の光景、日御碕に隣接する経島うみねこ蕃殖地[104]のウミネコが飛び交う情景を述べる。

隠岐島の記載項目には史跡が多く含まれるが、景勝地として島前・知夫里島の渡津と島後の白島が取り上げられている。また、景観を形成する習俗として牧畑の記述も見落とせない。渡津は「渡津島、錨島、笠島、産井伝馬島、風見姿島等の小嶼散在し、各島奇巖崛起し、老松枝を交へ、小松島の感がある」[105]と、周囲の小島が織りなす風景を記す。隠岐島前の景勝地としては、現在、知夫里島の赤壁や西ノ島の国賀海岸が有名であり、この渡津が取り上げられることは少ない。島後の北部にある白島は「白島埼及その付近に散在する松島、小白島、沖島、白島四島嶼の総称である。全島白色の石英粗面岩より成り、奇岩怪窟多く、青松参差名状すべからざる勝区である」[106]と、奇岩の独特な色合いを含めて記す。また、隠岐の人文景観として注目される牧畑については「同地に於ては普通の畑を本畑と云ひ、これに対して或る季節間大豆、小豆、大麦、小麦、粟、稗等の作物を栽培し、他の季節には牛、馬を放牧し、耕作、放牧を交々転換する畑を牧畑と称する」[107]と記し、体躯が小さい隠岐馬についても触れる。隠岐島の景観形成の歴史を知る上で参考になる記述である。

四国の足摺宇和海の景勝地では、高知県の蹉跎岬（足摺岬）、竜串、見残し及び愛媛県の雪輪の滝（滑床）鮎返滝の記述が目に留まる。蹉跎岬は「海に迫って断崖絶壁をなし、波濤湃澎脚下に湧いて、海浜少許の平地なく、室戸岬に見る雄壮な海岸美と共に、幽棲艶麗な風景を併せ有す」[108]と記し、天狗浜の断崖に自生する蒲葵にも触れる。竜串は「海水の浸蝕によって海岸一帯の岩石が千態万姿の形状を現はす奇勝である」[109]と記し、脆弱な第三紀の砂岩の地層ゆえに形成された景観である、と説く。見残しは「竜串と同じ成因により相似た奇景をなし、それに劣らぬ景勝であるが、交通不便の為探勝者少く、竜串のみを見て帰る人が多いので、見残しの名で呼ばれて居る」[110]と記す。しかし今日流布している「見残し」の地名由来譚は、弘法大師が見残したから、というものが一般的である。

山陰海岸の景勝地では、鳥取県浦富海岸の記述が白眉である。浦富海岸については、とりわけ西部海岸の菜種島、西蓬莱島、千貫松島を詳述する。菜種島は「円錐形の一島で、（中略）島上には黒松の老樹鬱蒼として繁茂し、野生の菜種があって、春は黄金色の花が緑色と反映し景観絶佳である。舟に棹さして島巡りすると、北部及南部に各一箇の洞門が見られる」[111]と記す。西蓬莱島は「松樹繁り、蓬莱鼻には東西の二洞窟がある」[112]と述べる。千貫松島は「円錐状をなし、頂上に一株の老松が蟠っている。旧藩主池田氏が若し我が庭園にこれを移すものあらば、禄千貫を与へんと嘆賞したので、千貫松、千貫松島の名が起ったと云ふ」[113]と、その由来を含めて紹介する。

愛媛県の雪輪の滝（滑床）は「滑床山にあり、滝と云ふよりも奔湍で、付近は国有の深林であり、その渓谷美がよい」[114]と、その優れた渓谷美を記す。鮎返滝は「上下二つの大瀑でこの辺松柏茂り蔦蔓交り、付近一帯は断崖絶壁をなし、塵外の仙境である」[115]と、清らかな環境をたたえる。いずれも、宇和島市東方の山中にある景勝地である。

7.九州の国立公園

『日本案内記九州篇』によると、九州の景勝地として、戦前に指定された阿蘇、霧島、雲仙の三国立公園のほかに、福岡県英彦山、大分県耶馬渓、佐賀県虹の松原、宮崎県五箇瀬川峡谷（高千穂峡）が特筆されているが、[116]これらは、いずれも国立公園ではなく国定公園である。

戦後、区域拡張された阿蘇くじゅう国立公園では、由布岳、鶴見岳が取り上げられている。また、雲仙天草では、天草島他が記載項目である。霧島錦江湾では、鉄道が延びたことにより、池田湖、開聞岳、山川港の景勝地を控えた温泉郷の指宿[117]の将来性が注目されている。屋久島は、屋久杉原生林が取りあげられているものの、記載項目は僅かである。屋久島においてスギの原生林が注目され、天然記念物に指定されたのは大正 12 年とその歴史は古いが、屋久島に大勢の観光客が訪れるようになるのは、平成 5 年の世界遺産登録を契機としている。

戦後、新たに指定された西海国立公園では、佐世保の九十九島、平戸島、五島列島が紹介されている。佐世保周辺では、九十九島の景観と、それを鑑賞する場所として鵜戸越の記載がある。平戸は和蘭商館址・英吉利商館址等の史跡、五島列島は、女男列島の珊瑚採取・有川の捕鯨を含めた漁業等の紹介はあるものの、島嶼の景観及び景勝地についての記述に見るべきものは少ない。九州の国立公園（戦後に指定等）における『日本案内記』記載項目の一覧は〈表 8〉のとおりである。

くじゅう地域についての記述項目は、由布岳・鶴見岳[118]にとどまるが、キリシマツツジ群落の紹介と共に、別府温泉の滞在客の散策地として最も良い山である、と述べる。

天草地域の景勝地については、天草松島、富岡町の記述が目を引く。また、崎津では天草のキリシタン文化の残存を紹介する。天草上島合津沖合一帯の総称である天草松島は「大小無数の島々が碁布し、白帆点々その間を縫ひ、風光陸前の松島に類似し、三角から本渡へ行く汽船客を喜ばせる」[119]と、周囲に小島が点在する風景を記す。下島の西北端に位置し内湾に臨む富

岡町は「曲り崎と称する砂洲があってこの湾を抱き、白砂青松小天橋をなし、海を隔てて雲仙岳を眺むる景色は正に一幅の画である」[120]と、砂洲が織りなす風景を称賛する。崎津は「江戸時代禁教令の下に密に切支丹の信仰を続けて居た地として、また僅にいはゆる天草情調の残って居る地として知られて居る」[121]と、キリシタン文化に触れる。天草のキリシタン文化は、明治40年、与謝野寛が木下杢太郎・北原白秋らと共に旅した際の旅行記『五足の靴』により世の関心を集めることとなった。なお、崎津には『日本案内記九州篇』刊行前年の昭和9年に天主堂が再建されるが、その記載はみられない。

〈表8〉九州の国立公園（戦後に指定等）における『日本案内記』記載項目

阿蘇くじゅう国立公園:【由布岳、鶴見岳】
雲仙天草国立公園:【天草島】【大矢野島】【湯島】【天草松島】【合津】【富岡町】【千人塚】【牛深町】【崎津】
霧島錦江湾国立公園:【尚古集成館】【磯島津邸】【鶴嶺神社】【南洲月照入水遺址】【鹿児島湾】【桜島】【古里温泉】【指宿町】【指宿温泉】【指宿試験場】【黒岩氏の屋敷址】【山川町】【山川温泉】【鰻池】【鰻温泉】【蘇鉄自生地】【武山神社】【徳光神社】【長崎鼻】【開聞温泉】【池田湖】【枚聞神社】【開聞岳】
屋久島国立公園:【薩南諸島】【屋久島】【屋久杉原生林】
西海国立公園:【鵜戸越】【九十九島】【平戸島】【平戸町】【平戸和蘭商館址】【英吉利商館址】【最教寺（講談所）】【亀岡神社】【幸橋】【千里ヶ浜】【川内浦】【川内甘藷原産地】【五島】【富江町】【玉之浦町】【へご自生北限地帯】【大瀬崎】

備考：雲仙天草国立公園は、昭和31年天草地域を追加し雲仙国立公園から現在の名称に改称。さらに昭和42年天草五橋地域を追加。霧島錦江湾国立公園は、昭和39年錦江湾国定公園を編入し、屋久島地域を追加指定して霧島屋久国立公園となる。平成24年屋久島国立公園の分離独立に伴い現在の名称に改称。阿蘇くじゅう国立公園は、昭和28年由布岳・鶴見岳を追加指定。昭和40年やまなみハイウエイ沿線を追加し、昭和61年現在の名称となる。屋久島国立公園は、昭和39年霧島国立公園に追加指定され霧島屋久国立公園となるが、平成24年霧島屋久国立公園から分離独立。

錦江湾地域の景勝地については、錦江湾に浮かぶ桜島をはじめ薩摩半島南端の指宿温泉、長崎鼻、池田湖、開聞岳の記述が注目される。桜島は「鹿児島の風光はこの桜島が生命」[122]と記す。指宿温泉[123]は摺之浜の砂風呂が有名である。摺之浜の砂風呂は「海浜に丸太の支柱を建て、その上に苫屋根を葺いただけのもので、浴客は各自に砂を掘ってそれへ身を横たへる、極めて原始的なものである」[124]と、その素朴な姿を述べている。また、温泉熱を利用した蔬菜の促成栽培や製塩等の記述は興味を覚える。[125]指宿温泉周辺には旧制鹿児島高等農林学校の熱帯植物園、多良崎の海岸、その沖に浮ぶ知林島、池田湖、開聞岳、枚聞神社、戸柱公園、鰻池、長崎

鼻、徳光神社、山川港などの見所が多く、指宿駅から池田湖、枚聞神社、山川港などを周遊する遊覧バスが出ており、「ガイドガール」が名所の説明をする、とも記述されている。

とりわけ景勝地として知られた長崎鼻は「西には秀麗なる薩摩富士の開聞岳、南は渺茫たる太平洋に竹島、屋久島、硫黄島、黒島を望み、東は大隅半島の南に延びて佐田岬となりて海に落つるあり、四辺の眺観云ふべからずものがある」[126]と、その優れた眺望を記す。池田湖は「指顧の中に開聞岳と相対し、湖辺風趣に富み、近時遊覧船を浮べて観光に便して居る」[127]と述べ、すでに観光利用がなされていたことに触れる。開聞岳は「コニーデ式の火山で、美しい円錐形をなし、裾野は直に太平洋に洗はれ、景観の秀絶なること何々富士と云はれる諸山の首位に推すべきものである」[128]と、その秀麗な姿をたたえる。

まとめ

本研究を通して明らかになったことを整理すると、以下のとおりである。

北海道では、支笏・洞爺・登別・羊蹄山・定山渓・豊平峡などが、戦前から景勝地として知られていたことが『日本案内記』の記述から明らかになる。その把握の仕方を整理すると、支笏湖は、樽前山、恵庭岳、風不死岳に囲まれて風光明媚で風趣に富む。洞爺湖は、明朗閑雅。登別は、地獄谷、大湯沼、日和山、倶多羅湖を含めて、火山景観が見もの。羊蹄山は、秀麗な山容が優美。定山渓は、原始林に蔽はれた峯巒の流に迫る温泉地で周囲に豊富な見どころがある。豊平峡は、風光典雅幽邃な峡谷美を特色としている。

東北では、交通機関の発達に伴い、新しい名勝地が世人の注目を集めるようになったものの、八幡平や陸中海岸はいまだ交通の便がよくなく、本書の記載項目は少ない。やや多くの記載項目があるのは磐梯朝日国立公園であり、出羽三山、磐梯山、吾妻山地、猪苗代湖等の景勝地が取り上げられている。月山、湯殿山、羽黒山の出羽三山は、古くから東北地方を代表する聖なる山で、信仰登山が行われていた。明治 21 年の磐梯山の噴火により生じた裏磐梯の湖沼群が見どころとして挙げられている。吾妻山地では一切経山、五色沼、吾妻小富士が取り上げられているが、今日、探勝拠点となっている浄土平は「沼ノ平」と表記され、その湿原に若干の記述を見るに過ぎない。猪苗代湖は、湖水に姿を映す磐梯山の眺望を楽しむ湖であり、湖上遊覧の観光地となっていた様子がうかがえる。

関東では、秩父多摩甲斐国立公園の甲州の昇仙峡、日光国立公園に編入された鬼怒川渓谷・塩原の箒川渓谷、富士箱根伊豆国立公園の石廊崎（石室岬）、堂ヶ島などが戦前から景勝地として知られていた。昇仙峡は、花崗岩の巨塊が裸出した奇峭断崖、登竜巖、覚円峰、天狗巖、屏風巖、仙峨滝の壮観が特筆されている。鬼怒川渓谷、箒川渓谷は、いずれもその渓谷美と春の野州花、秋の紅葉の美観が挙げられている。石廊崎は侵食海岸の奇形、堂ヶ島では侵食によって形成された洞窟の奇観が取り上げられている。

中部では、伊勢志摩国立公園の鳥羽や英虞湾の風景美、上信越高原国立公園の志賀高原、妙高戸隠連山国立公園の妙高山、妙高山麓スキー場、赤倉温泉、野尻湖、戸隠山等が戦前から景

勝地として知られていた。鳥羽湾では、その風光を鑑賞する「島めぐり」の遊覧船が出ており、英虞湾では真珠養殖の人文景観が注目されていた。志賀高原は、昭和 2 年、長野電鉄が中野駅～湯田中駅間を開通させ、地元住民と協働した観光開発に力を注いだこともあり、森林、岩石、渓谷、湖沼、温泉と多様な景勝の要素を備えた場所として世に知られるようになった。妙高は、温泉のあるスキー場としてその展望美と相俟って戦前から注目を集めていた。

近畿では、戦後、国立公園に編入された熊野灘沿岸の串本付近にある橋杭岩をはじめ七里御浜の北端に位置する獅子岩と鬼ヶ城が景勝地として知られていた。瀬戸内海では、兵庫県の六甲山、摩耶山の山岳景観および赤穂御崎、室津、淡路の岩屋、松帆の浦、慶野松原の海岸風景が風光明媚な地として挙げられている。また、山陰海岸では、城崎温泉、玄武洞、西但馬の海岸が取り上げられ、とりわけ香住から浜坂に至る西但馬の海岸は、山陰第一の雄大な嶮崖をなし造化の妙技を尽す、とその海岸美がたたえられている。

中国四国では、瀬戸内海の厳島、鳴門をはじめ多くの地が戦前から知られていた。厳島は自然美と神社仏閣の建築による人工美の融合、鳴門は渦潮の壮観が景観上の特色であった。大山隠岐も多くの記載項目が見られ、大山周辺の蒜山や三徳山、島根半島の美保の北浦、多古の七ッ穴、潜戸、日御碕等が挙げられている。とりわけ島根半島においては南岸の明媚秀麗な女性的風景に対し、怒涛に洗われた北岸の岬湾、絶壁、洞窟の風光雄壮な景観の違いが対比されている。山陰海岸の景勝地では、景観絶佳な鳥取県浦富海岸の記述が白眉である。四国の足摺宇和海の景勝地では、断崖絶壁が海に迫る蹉跎岬（足摺岬）、特異な侵食地質の竜串と見残し、渓谷美に優れる雪輪の滝（滑床）などが挙げられている。

九州では、錦江湾地域の景勝地については、錦江湾に浮かぶ桜島をはじめ薩摩半島南端の指宿温泉、長崎鼻、池田湖、開聞岳、そしてこれらの景勝地を控えた温泉郷の指宿が知られていた。鹿児島の風光は桜島が生命、とさえ言われるほど桜島の存在は大きかった。また、摺之浜の砂風呂で有名な指宿は、鉄道が延びたことによる将来性が注目されており、指宿駅から池田湖、枚聞神社、山川港などを周遊するガイド付きの遊覧バスが運行し、観光地としての歩みを始めていたことを記載事項から知ることができる。

以上、『日本案内記』の記載事項から、戦後に指定等がなされた国立公園の中にも、すでに戦前から注目がなされていた景勝地が数多く存在し、その多くかがすでに観光利用に供されていた事実が明らかになる。

謝辞

本稿は、愛知淑徳大学研究助成「景勝地を巡る観光文化に関する基礎的研究」（平成 26～27 年度）の研究成果である。助成金を活用して、調査研究の一環として本稿で取り上げた国立公園の景観を実際に見学できたのは、得難い経験であった。記して、研究費をいただいた大学当局に感謝申し上げる。

注

[1] 谷沢明「『クーポンで國立公園めぐり』に見る遊覧旅行の一考察—大正～昭和初期における観光文化研究—」（『愛知淑徳大学論集—交流文化学部篇』第 4 号、2014 年、所収）

[2] 谷沢明「『日本案内記』に見る国立公園の旅行記事に関する一考察（1）—昭和初期における観光文化研究—」（『愛知淑徳大学論集—グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科篇』第 6 号、2014 年、所収）

[3] 谷沢明「『日本案内記』に見る国立公園の旅行記事に関する一考察（2）—昭和初期における観光文化研究—」（愛知淑徳大学『現代社会研究科報告』第 10 号、2014 年、所収）

[4] 鉄道省『日本案内記北海道篇』昭和 11 年、p 63

[5] 前掲 4、p 64　洞爺湖温泉について「函館付近の湯の川、札幌から近い定山渓、室蘭から近い登別は、都市に近い位置に恵まれて居た為に、はやくから北海道旅行者に知られ、北海道の三大温泉と称せられて居たが、近年洞爺湖畔温泉の異常なる発展によって四大温泉の名が呼ばるるに至った」と記載。

[6] 前掲 4、p 182　支笏湖について「アイヌ語シコツは大なる渓谷を意味し、千歳川の渓谷の総称であった」「湖岸は概ね断崖絶壁である。（中略）最深は三六三米で（本邦）第二位を占め」と記載。

[7] 明治 41 年、王子軽便鉄道が運転開始。大正 11 年、一般客扱許可を得て、以後、支笏湖を訪れる観光客の便にも供した。

[8] 前掲 4、p 180　樽前山について「北海道に於ける活火山の一として著名であり」と記載。

[9] 前掲 4、p 183　恵庭岳について「活火山で支笏湖畔に山裾を流して聳え、山頂には噴火口があり」と記載。

[10] 前掲 4、p 183

[11] 前掲 4、p 159～162　洞爺湖について「アイヌ語トウは湖、ヤは丘で、洞爺は湖丘の意である」「最深一八三米に及ぶ陥落湖である」と記載。なお、当時、洞爺湖へは虻田駅から洞爺湖電気鉄道が通じていた。また、洞爺湖電気鉄道の駅がある湖畔の洞爺湖温泉から対岸の向洞爺、付近の壮瞥の滝へ定期発動機船の便があった。

[12] 前掲 4、p 163~164　有珠山について「洞爺湖の南にある二重式活火山で、（中略）内部に大有珠（七二五米）、小有珠（六一一米）の二山がある、その火口原には銀沼と云ふ火口原湖がある」と記載。

[13] 前掲 4、p 162　洞爺湖温泉について「温泉は大正六年の発見で、もと床丹温泉と云って居た」と記載。また、洞爺湖温泉には洞爺湖電気鉄道会社が経営する洞爺湖ゴルフ場があった。

[14] 前掲 4、p 152　定山渓温泉について「近く定山渓より薄別鉱泉を経て中山峠を越え、喜茂別、留寿都を通りて向洞爺から洞爺湖畔に沿うて洞爺湖温泉に至る自動車の便が開ける予定である」と記載。なお、道央と道南を結ぶ幹線道路にある中山峠は、明治 4 年に「本願寺街道」として開削されたものの、道幅の狭い悪路であった。

[15] 前掲 4、p 162

[16] 前掲 4、p 172　登別温泉について「温泉場として開けたのは安政年間滝本金蔵が妻の皮膚病を癒さん為この地に入ってその効能を知り、広くその恵を頒たんため、浴室を設け湯宿を営んだのが始まりである」「登別は北海道第一の温泉で、我が国に於ける著名な温泉場の一つに数へられて居り、北海道に入る旅行者で、この温泉に足を入れぬ人は殆どないと云ってもよい」と記載。

[17] 前掲 4、p 173

[18] 前掲 4、p 173

[19] 前掲 4、p 175

[20] 前掲 4、p 175

[21] 前掲 4、p 118　羊蹄山について「その山容は標式的なコニーデで、独立せる旧火山の富士式な秀峯を見せて居る」と記載。

[22] 前掲 4、p 118～121　植生について「山麓は「ぶな」、楢、岳樺などの森林で、それから六合目付近までは蝦夷松、「とど松」の原生林が覆ひ、上部は熔岩礫帯をなし高山植物に富んで居り、天然記念物に指定されて居る」と記載。

[23] 大正 7 年、定山渓鉄道が白石駅～定山渓間開業。木材・鉱石・石材の輸送を主目的にしたが、定山渓

温泉への観光客の輸送に活躍した。昭和 4 年、東札幌～定山渓が電化。昭和 44 年、廃止された。

[24] 前掲 4、 p 152　定山渓温泉について「浴場を開いたのは明治四年で、越前の行脚僧定山の出願により、開拓使の手によって道を通じ浴室を建てて定山に管理せしめたのが始まりである」と記す。

[25] 前掲 4、 p 151～152　加えて「北海道に於ける代表的温泉地の一つで、札幌に入ってここに足を延ばさぬ人は殆ど無いと云ってよい」と記載。

[26] 前掲 4、 p 154

[27] 鉄道省『日本案内記東北篇』昭和 4 年、 p 41

[28] 前掲 27、 p 41

[29] 出羽三山登山は、鶴岡駅か狩川駅から自動車で羽黒山の御師が住む手向集落に至り、羽黒山の出羽神社に参拝、それより月山、湯殿山を経て志津に下った。志津から水沢まで歩くと、水沢から間沢まで自動車の便があり、間沢から三山電気鉄道で羽前高松駅に至った。

[30] 前掲 27、 p 213　月山について「輝石安山岩より成り、海抜一、九二四米、鈍頂円錐状をなす」と記載。

[31] 前掲 27、 p 213～214

[32] 前掲 27、 p 202～203

[33] 前掲 27、 p 255～257

[34] 前掲 27、 p 242～244　磐梯山について「有名なる明治二十一年の破裂により山体を破壊飛散して北に開いた蹄鉄状の爆裂火口を形成」と記載。

[35] 前掲 27、 p 243

[36] 前掲 27、 p 191

[37] 前掲 27、 p 191～192

[38] 前掲 27、 p 192

[39] 前掲 27、 p 76　安達太良山の眺望について「山頂よりは北方に近く吾妻富士、一切経、東吾妻などの群峰を見、遥かに西北に飯豊山を望む。東は阿武隈川の平野が脚下に瞰下され、東北には蔵王山が雲表にその雄姿を現はして居る。西には磐梯山が間近に迫り、その麓に檜原、小野川、秋元の諸湖が小山の間に隠見し、遠く越後山脈の山々が霞の中に浮んで居る」と記載。

[40] 前掲 27、 p 239～240　猪苗代湖について「琵琶期、八郎潟、霞ケ浦に次ぎ本州第四位の大湖」と記載。

[41] 鉄道省『日本案内記関東篇』昭和 5 年、 p 57

[42] 前掲 41、 p 57～58

[43] 前掲 41、 p 56

[44] 前掲 41、 p 216

[45] 前掲 41、 p 306　三峰神社について「山麓一の鳥居まで自動車の便がある。ここより山頂まで約六粁、境内広濶にして展望が広い」と記載。

[46] 前掲 41、 p 251　御嶽神社について「御嶽駅より山麓滝本まで約四粁。自動車の便がある。それから本社まで約四粁」と記載。

[47] 前掲 41、 p 283～284　昇仙峡について「天神森から荒川に沿ひ仙峨滝に至る四粁の峡谷で、指定の名勝地である」と記載。

[48] 前掲 41、 p 284

[49] 前掲 41、 p 284

[50] 前掲 41、 p 371～372　鬼怒川温泉へは下野電気鉄道が通じ、鬼怒川温泉駅が設置され交通が便利であった。

[51] 前掲 41、 p 407～408　塩原温泉について「温泉場は上記の大網、福渡戸、塩釜、畑下戸、門前、古町の箒川沿いの他、塩の湯、須巻、新湯、元湯を合せて塩原十湯と唱へて居たが、近年袖ヶ沢が新に展けて十一湯となって居る」と記載。塩原温泉へは、駅前から塩原口まで電車の便があり、塩原口から古町までバスが通じていた。

[52] 前掲 41、 p 416～417　那須温泉について「湯本、北、弁天、大丸、三斗小屋、高雄股、板室を古来那須七湯と云って居たが、近年、八幡、旭、新那須、飯盛など新に展け、特に那須御用邸が設けられてから一層面目を改めた様である」と記載。那須温泉へは、黒磯駅から今新那須を経て湯本へ、さらに板室まで自動車の便があった。

[53] 前掲 41、 p 227　三津へは沼津駅・伊豆長岡駅から自動車の便があった。
[54] 前掲 41、 p 229　湯ヶ島へは、修善寺から自動車の便があった。
[55] 前掲 41、 p 236　石室岬へは下田から下流集落まで自動車が通じていたが、下流集落から 8 kmの道を歩かなければならなかった。
[56] 前掲 41、 p 236　岬からの眺望について「東に近くの蓑掛岩の三尖峰を望み、遠く神子元島の燈台から大島、利島、新島、式根島、三宅島、神津島など伊豆七島を眺め、風景極めて雄大である」と記載。
[57] 前掲 41、 p 236
[58] 鉄道省『日本案内記中部篇』昭和 6 年、 p 68
[59] 前掲 58、 p 73　南アルプス国立公園について「全体として北アルプスに比し原始的な景観を秘め、登山路及山小屋などの設備も劣って居るが、逐年この方面の探勝者は増加しつつある」と記載。
[60] 前掲 58、 p 175
[61] 前掲 58、 p 175　樋の山の展望について「鳥羽湾の風光観望第一の地、大小の島々絵の如く眼下に浮び、快晴の日は遠く富士が眺められる」と記載。
[62] 前掲 58、 p 175　日和山の展望について「鳥羽湾頭に聳えて眼界広く、脚下の諸島より、渥美、知多半島が眺められ、樋の山と共に勝地である。舟子がこの山によって天候を予知するからこの名があり」と記載。
[63] 前掲 58、 p 176
[64] 前掲 58、 p 176　大王崎について「崎嶇たる断崖海を壓し、怒涛岩を噛んで飛沫天に冲するの壮観を呈する。ここは古来沿岸を航行する舟人により畏怖された岩礁帯であった」と記載。
[65] 前掲 58、 p 388　志賀高原について「熊の湯温泉の東辺にある志賀山（海抜二、〇三五米）を中心として東は大沼池、西は琵琶池に至る一帯の地を云ふ」と記載。
[66] 志賀高原にはスキー客用の本格的ホテルとして昭和 12 年に創業した旧志賀高原ホテルが志賀高原歴史記念館として保存・活用されている。
[67] 前掲 58、 p 397
[68] 前掲 58、 p 395
[69] 前掲 58、 p 396
[70] 戦前からスキーリゾート地として知られた赤倉には、昭和 12 年創業の赤倉観光ホテルがあり、今も営業を続けている。
[71] 前掲 58、 p 68　野尻湖について「信越国境に近く斑尾火山の麓にあり、西方に近く妙高、黒姫、飯縄の大岳聳立して湖畔の眺望雄大である」と記載。
[72] 前掲 58、 p 384
[73] 鉄道省『日本案内記近畿篇・上』昭和 7 年、 p 101
[74] 前掲 73、 p 103
[75] 前掲 73、 p 103
[76] 鉄道省『日本案内記近畿篇・下』昭和 8 年、 p 408
[77] 前掲 76、 p 423
[78] 前掲 76、 p 423
[79] 前掲 76、 p 123　六甲山について「神戸付近の最高峰で、花崗岩、石英斑岩等より成り、海抜九三二米である」と記載。
[80] 前掲 76、 p 123
[81] 前掲 76、 p 162
[82] 前掲 76、 p 158
[83] 前掲 76、 p 164
[84] 前掲 76、 p 165
[85] 前掲 76、 p 167
[86] 前掲 73、 p 301　城崎温泉について「関西地方に於ける代表的温泉の一である。（中略）旅館には内湯はなく、浴場は皆町営で、御所の湯、曼陀羅湯、一の湯、鴻の湯、柳湯、地蔵湯の六ヶ所あり、（中略）旅館は百軒あまりもあり」と記載。共同浴場に入浴する風習は今も受け継がれている。
[87] 前掲 73、 p 301　玄武洞について「その形が蜂巣に似てゐるので蜂巣窟とも呼ばれて居る」と記載。

[88] 前掲 73、 p 302
[89] 鉄道省『日本案内記中国・四国篇』昭和 9 年、 p 79
[90] 前掲 89、 p 81
[91] 前掲 89、 p 80
[92] 前掲 89、 p 80～81
[93] 前掲 89、 p 82
[94] 前掲 89、 p 186
[95] 前掲 89、 p 407　鳴門公園について「土佐泊から公園までは白砂青松の松原を縫うて進み、右に千鳥ヶ浜を観る。公園入口から丘陵を登ること約二〇〇米で御茶園眺望台、尚北進すれば稍々低地の千畳敷に達する」と記載。
[96] 前掲 89、 p 407　御茶園眺望台について「鳴門の全景を一眸に収められる手前大毛島孫崎から裸島、中瀬、飛島、つづいて淡路の門崎が脚下に指呼され、潮の音が物凄く耳を打ち壮観である」と記載。
[97] 前掲 89、 p 407　千畳敷について「ここの眺望もまた雄大で、古くから観潮には第一の場所とされて居る」と記載。
[98] 前掲 89、 p 136　蒜山について「南麓は所謂蒜山野と云はれ、優美な裾野を曳き、一帯は草原で八粁平方に及ぶ高原をなし、冬季十二月下旬から三月初旬まで五〇糎乃至一米の積雪がありスキー地として優れて居るが、多少交通不便の為開発は遅れて居る」と記載。
[99] 前掲 89、 p 254　三徳山について「山麓の三仏寺本堂から奥院に至る間に牛ノ瀬、馬ノ瀬、鼻蔓石、伏見石、屏風岩、胎内潜等あり、奥院より上方には天狗阪、仙人窟及三鈷の岩屋等あり、何れも行場で、古来大和の吉野山、伊予の石鎚山と共に役の行者の開山と称せられ、山陰道修験場の一として著名である。全山に亙り巖峯、建築、森林、渓流の四者相俟って、奇観奇勝をなして居る」と記載。
[100] 前掲 89、 p 288～289　北浦については「美保関町美保関及雲津、片江村諸喰にあり、伯耆の境港から同半島の西部恵曇港に至る汽船を利用して、勝景を鑑賞することが出来る」と記載。
[101] 前掲 89、 p 289　多古の七ッ穴について「島根半島の最北端をなせる多古鼻の岬角は集塊岩及凝灰岩の互層より成り、その中沖泊より瀬崎に至る間の海岸は高さ約五〇米、延長約四〇〇米に亙る一大絶壁で、その下部に大小四個の波蝕洞窟が九箇の洞口を開いて相並んで居る」と記載。
[102] 前掲 89、 p 290　潜戸について「集塊岩及凝灰岩質集塊岩から成る潜戸鼻の先端懸崖にある洞門及洞窟で、前者を新潜戸、後者を旧潜戸と云ふ」と記載。
[103] 前掲 89、 p 308　日御碕について「燈台からは蒼海万里、落日の光景は無比の偉観と云はれて居る」と記載。
[104] 前掲 89、 p 308　経島うみねこ蕃殖地について「日御碕岬頭に聳えて居る海中の巨巖で、文島とも云ふ。鴎に酷似するうみねこが幾千も群飛して、奇聲を発して鳴き交はして居る様は奇観である」と記載。
[105] 前掲 89、 p 267
[106] 前掲 89、 p 272
[107] 前掲 89、 p 267
[108] 前掲 89、 p 452　足摺岬（蹉跎岬）について「岬は隆起せる海蝕台地で地質は花崗岩から成り」と記載。
[109] 前掲 89、 p 452　竜串について「叶崎と千尋岬とを東西に控へた小湾の奥にある汀渚約一粁の間」と記載。
[110] 前掲 89、 p 452　見残しについて「千尋岬の西岸にあり、竜串から海上二粁、」と記載。
[111] 前掲 89、 p 240
[112] 前掲 89、 p 240
[113] 前掲 89、 p 240～241
[114] 前掲 89、 p 398
[115] 前掲 89、 p 398
[116] 鉄道省『日本案内記九州篇』昭和 10 年、 p 61
[117] 前掲 116、 p 63　指宿について「池田湖、開聞岳、山川港の景勝地を控へ、風景と温泉とに恵まれて居るが、地薩南半島の南端に偏するため、弘く世に知らるるに至らなかったが、昨年末鹿児島からの支線が既にこの地まで延長したので、鹿児島に入った旅行者の足は必ずこの地に及ぶこととなるであらう」と記載。

[118] 前掲 116、 p 373～374　由布岳・鶴見岳について「由布岳は別府湾の西にその三角錐の標式的な火山円錐の山容を聳え、鶴見岳と共に別府湾の背景をなし、その尖峯は富士に似て豊後富士とも呼ばれて居る。（中略）概ね草山の美しい斜線を曳き、山容頗る優雅である」と記載。
[119] 前掲 116、 p 275
[120] 前掲 116、 p 275
[121] 前掲 116、 p 275
[122] 前掲 116、 p 310
[123] 前掲 116、 p 312　指宿温泉について「温泉地帯は極めて広範囲に亘り、東は魚見岳南麓の多良から西は池田湖に、北は宮ヶ浜の西方柴立から南は山川町に及び、その涌泉地域の広きことと、温泉の涌出量の豊富なること、摺之浜海岸一帯の砂湯場を有することなど、別府と並称すべき大温泉郷である」と記載。
[124] 前掲 116、 p 312～313
[125] 前掲 116、 p 312　指宿温泉の利用について「温床を設けて蔬菜の促成栽培の盛に行はれて居ること、海水を引いて温泉熱によって製塩して居ることなどで、中学校の寄宿舎にも温泉浴場があり、牛馬浴用の湯の池なども設けられて居る」と記載。
[126] 前掲 116、 p 316
[127] 前掲 116、 p 316
[128] 前掲 116、 p 317　開聞岳について「薩摩富士の名もある。薩摩半島の南端に聳え、海抜九二四米に達する」と記載。